

あとがき

2002年に『新しい学校教育相談の在り方と進め方』という書籍を出しました。当時私は、まだ高等学校の教員でした。

それから17年が過ぎ、再び教育相談について正面からアプローチするテーマで執筆を依頼されました。現場の教師として、また大学教員として、教育相談にかかわり続けてきた私にとっては、教育相談コーディネーターが配置・指名が進み、スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）の常勤化も視野に入ってきてつつある時代のターニングポイントで、こうした書籍を執筆するチャンスに恵まれたことは幸運でした。少々大げさかもしれませんが、本書は、18年間の高校教員としての体験と17年間の大学教員としての研究の総まとめのような思いで書き上げました。

内容については、「わかりやすい本にしたい」との思いから、学術的な用語はなるべく避けました。引用文献等も「これは読んでもらいたい」というものに絞りましたが、背景にはきちんとした論文のサーチと実践の裏づけがあると思っていただいて結構です。

現在、私は、公益社団法人学校教育開発研究所（A I S E S）の代表理事を務めています。この法人は、私たちが考える学校教育相談を広く発信することで、先生や保護者のみなさんを支援し、「教育を通じて、子どもたちに明るい未来を」届けることを目的に設立しました。本書を読んで、もっと教育相談を学びたいと思われた方は、ぜひ、ホームページにアクセスして、私

たちの仲間になっていただければと思います。

単著を書く機会も、もうそうはないと思いますので、最後に、教育相談にかかわってお世話になった方々に感謝を述べさせていただきます。

下司昌一先生、柴崎武宏先生、中野武房先生、中村孝太郎先生、日野宜千先生、森川澄男先生。教育相談とは何かを教えてください、生意気で無遠慮な私をおもしろがってかわいがってください、ありがとうございます。

高橋超先生、石井眞治先生。一介の高校教員を大学に招き入れてくださり感謝しています。

金山健一先生、神山貴弥先生、小玉有子先生、佐藤博子先生、鈴木建生先生、高橋あつ子先生、中林浩子先生。これからも一緒に教育相談を創っていきましょう。中林先生には、原稿に目を通していただきました。ありがとうございます。

埼玉県高等学校教育相談研究会時代の仲間、兵庫教育大学の上地ゼミの仲間。みなさんがいたから頑張れました。

茨木泰文先生、エリクソンユキコ先生、沖林洋平先生、篠塚大輔先生、瀬戸隆博先生、中井悠加先生、山崎茜先生、山田洋平先生、米沢崇先生、そして栗原研の卒業生、在校生。みなさんは私の希望です。みなさんに未来を託します。

そして、ほんの森出版の小林敏史さん。いつも、そして今回も、ありがとうございます。

ここに挙げたお一人お一人が、私を育ててくれたと思っています。

そして最後に、この本は、今は亡き、私の師匠、上地安昭先生に捧げたいと思います。

2020年4月

栗原 慎二